

令和2年度 現職研修助成事業研修報告書

周南市立住吉中学校

1 研究主題

伝えあい、認めあい、高めあうことのできる生徒の育成

～ 教科スタンダードを基軸にして「人」「地域（社会）」「環境」に

関わり・つながる活動の展開 ～

2 主題設定の理由

この研究主題は、今年度の学校教育目標「自分も人も大切にし、一生懸命努力する生徒の育成 ～伝えあい、認めあい、高めあう『チーム住吉』～」を達成するためのものである。

「伝えあい」とは、自分の考えが相手に伝わる喜びや自己有用感による主体的な学びの姿であり、「認めあい」とは、生徒同士、教職員や地域の人々などいろいろな人とのやり取りや、文献等で知った先哲の考え方を手掛かりにして自らの考えを広げる、対話的な学びの姿を表している。「高めあうことのできる生徒」とは、伝えあい、認めあう中で実践される豊かな学びあいによって、知識や技能が相互に関連付けられたり組み合わせられたりして、異なる状況でも活用できるものとなっている深い学びを実現した姿を表している。

「教科スタンダード」とは、一昨年度から取り組んでいる中心発問1つ・グループ活動の授業で思考を深める授業形態「道徳スタンダード」を各教科の授業にも広げたものである。

本年度から、各教科の授業で得られた、知識や技能を、「人」「地域（社会）」「環境」に関連付けたり、活用したりすることで深い学びを実現していくように仕組み、「人」「地域（社会）」「環境」と関連付ける視点としてSDGsを取り入れることとした。また、SDGsを柱とする総合的な学習の時間とリンクさせることによって、身に付けた知識や技能を発揮したり、活用したりして関連付けることができ、「深い学び」の実現化につなげたい。

さらに、「深い学び」の実現によって、自己有用（存在）感の醸成と判断力の強化へとつながり「自分も人も大切にし、一生懸命努力する生徒」を育成することができるであろうと考えた。

3 具体的な取組

(1) 「SDGs」を柱とした、総合的な学習の時間の展開

| 3年間を通したテーマ | | 「住中 SDGs」 | | |
|------------|----------------------------------|--|-----|---|
| | | 知る | 考える | 行動する |
| 学年 | 1年生 | 2年生 | | 3年生 |
| テーマ | SDGsで地域とつながる | 働くこととSDGs | | SDGsで持続可能な地域創り |
| 探究課題 | SDGsの視点で地域について学び、地域の魅力や課題について知る。 | SDGsの視点で職業や企業の取組を学び、働くこととSDGsのつながりについて考える。 | | 他都市から、SDGsの視点で持続可能なまちづくりや地域活性化に向けた取組を学び、周南市のまちづくりについて考え、地域づくりに参画する。 |

(2) 各学年の総合的な学習の時間の取組

① 1年生

| 月 | 内容 |
|-----|--|
| 6月 | SDGs オリエンテーション |
| 7月 | SDGs テーマ別授業・SDGs の取組調べ |
| 8月 | SDGs に関するアンケート調査 |
| 9月 | 周南市のSDGsに関する仮説設定 |
| 10月 | 情報収集 |
| 11月 | (株)新周南新聞社 竹田 咲絵 さん 取材・記事の書き方講演会 |
| 12月 | フィールドワーク 情報の整理分析・仮説検証 |
| 1月 | まとめ・発表 |
| 2月 | 船橋市立飯山満中学校とのオンライン交流 JICA 海外協力隊 山縣 亮介 さん 講演会 |
| 3月 | 冊子「しゅうなん SDGs ブック」発行 (株)ジブンノオト 大野 圭司 さん 講演会 |



写真：オリエンテーション（左）富田川フィールドワーク（中）飯山満中とのオンライン交流会

② 2 年生

| 月 | 内容 |
|-----|--|
| 6月 | SDGs オリエンテーション |
| 7月 | SDGs、働くことや職業に関する学習 |
| 8月 | 地元企業の方による職業講話 |
| 9月 | 企業に求められる SDGs について学習 |
| 10月 | 地域の方とともに「働くことと SDGs がつながる街づくり」をテーマに取組を考える。 |
| 12月 | 中間発表 |
| 1月 | 発表会 |
| 2月 | JICA 海外協力隊 山縣 亮介 さん 講演会 |
| 3月 | (株)ジブンノオト 大野 圭司 さん 講演会 |



写真：職業講話（左）
地域の方との話し合い（右）

③ 3 年生

| 月 | 内容 |
|-----|---|
| 6月 | SDGs オリエンテーション |
| 7月 | 「京プラン」について知る ・具体的な事業の内容と SDGs とのつながり ・事業の成果と課題 ・現地で確認すること ・班別自主研修の行程を決める |
| 8月 | 京都市役所の方にオンラインインタビュー |
| 9月 | 「京プラン」で学んだことを生かした周南市のまちづくりについて考え、提案する。 |
| 10月 | 文化祭で発表 |



写真：京都市役所へのオンラインインタビュー（左）と文化祭での発表（右）

4 成果と課題

(1) 成果

- ・SDGs というゴールが明確であり、総合的な学習の時間の設定にブレがない。
- ・課題に対して興味をもち主体的に活動していた。SDGs という新しい視点で、自分の生活や今後の生き方について考えていた。
- ・電話をかける、FAX を送信する、名刺を交換する、校外の人に話を聞く、お礼の手紙を書くなど教科の授業だけでは体験できないことができた。
- ・情報活用能力、コミュニケーション力、プレゼンテーションや文章で伝える力などが向上した。
- ・各教科で得た知識や技能を実際に活用することで、さらに理解や技術が深まったり向上したりした。
- ・それぞれが得意なことをいかした協働的な活動を通して、自分や他人の良さに気がつくことができた。
- ・さまざまな学校外の方や企業・団体・学校とつながることができた。
- ・地域の方のお話を聞いたり、一緒に話し合ったりする活動を通して、地域の大人の思いや考えを知ることができた。
- ・オンラインで取材・交流をする活動を通して、ICT を活用すればさらに世界が広がることに気がついた。
- ・学習が深まるほど、新しい疑問や課題を見出すことができ、ものの見方が広がっていた。

(2) 課題

- ・学習の計画、準備や外部と連携するための渉外が来年度はさらにスムーズになるとよい。
- ・SDGs についての知識を深め、地域の魅力や課題について学ぶ「知る」という行程を丁寧に取り組むことで、次の段階である「考える」「行動する」がさらに充実する。
- ・協働学習をさらに充実させるために ICT 活用技術も身につける必要がある。
- ・それぞれで行われている学校教育活動の教育効果をさらに上げ、生徒の学びを深めたり、広げたりするために、総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムマネジメントにさらに取り組む必要がある。